

地震火災における密集市街地の避難安全限界に関する研究【安全・安心】

研究開発期間（令和7～9年度）

〔担当者〕 鈴木雄太

本研究開発課題は、密集市街地の安全性向上に向け、不燃化等のハード対策に加え初期消火等のソフト対策を踏まえた密集市街地の安全性評価手法の確立のため、ソフト対策効果を考慮した延焼危険性及び避難困難性指標の検討を行うとともに、ソフト対策の中でも地震時の地域住民活動における安全性確保のための安全上の見切り時期（安全限界時間）の評価ツールを開発することを目的とする。

本年度は、ソフト対策による出火抑制とハード対策による延焼遮断とは、同じ平均焼失率の低減量であってもリスク低減の意味が異なることを整理した。その上で、両者を比較可能とするため、延焼クラスターの分割や建物除却を用いた「等価ハード整備」の数理モデルを構築し、シミュレーションにより一火点焼失率の確率分布を評価した。